

## 気候を通して世界の中の日本を知る

埼玉県立大宮中央高等学校 関谷正文

### 1. 本校単位制による定時制生徒の特色

本校は、全国で5番目の単位制による高校である。初めて高校生活を体験する者、一度は高校生として学んだ経験のある者、社会に出て多くの経験を積んできた者などが共に学び、年齢的にも15歳から50歳くらいと幅広く、県内全域から通学してくるので、毎日登校できない者や、学ぶ時間帯が限られている者など一人ひとりが、今までの自分の経験を生かし学習条件にあわせ卒業をめざしている。

多様な生徒のニーズに合わせて、適性や興味、進路に応じて各自が自由に教科・科目を選択し学年制の枠をとりはらった「単位制高校」というもとの生徒は学んでいる。

生徒は、一人ひとりが個人別時間割を持ち、各自のペースで学習を続けている。

### 2. 地理学習の効果

このような状況の中で、地理を選択する生徒は自分の意志で受講しているので、比較的積極的な姿勢で授業に取り組んでいる。

最近の世界における激動の出来事については、生徒も強い興味関心を持っているが、実際に授業において『イラク』はどこにあるか、夏季オリンピックが行われる『アテネ』はどこどの国と、問いかけても即座に答えが返ってこない。

しかし地図帳などで確認し、日本との距離や広さの違いを認識しながら学習を進め、こちらの地名の問いかけにすぐ興味を持って調べていくうちに、自分たちから、地名について、事前調査をし

ていく習慣ができてきたのである。

### 3. 気候を学ぶ

『楽しく学ぶ世界地理B』の教科書（帝国書院）では、今まで発行された教科書と違い、写真や図解説明が多いので、生徒は旅行のガイドブック的感覚でとても身近にかつ親しみを持って活用している。

このような雰囲気の中で、今世界全体で地球温

各気候区の特色 (その1) クラス \_\_\_\_\_ 生徒番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ (プリントNo.16)

① 熱帯 ( ) → [ ] ② 乾燥帯 ( ) → [ ]

(1) ( ) [ ] (1) ( ) [ ]

○気候の特色① ○気候の特色①

② ②

○植生→ ○植生→

○土壌→ ○土壌→

○分布→ ○分布→

(2) ( ) [ ]

○気候の特色① ○気候の特色①

② ②

○植生→ ○植生→

○土壌→ ○土壌→

○分布→ ○分布→

(3) ( ) [ ]

○気候の特色① ○気候の特色①

② ②

○植生→ ○植生→

○土壌→ ○土壌→

○分布→ ○分布→

各気候区の特色 (その3) クラス \_\_\_\_\_ 生徒番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ (プリントNo.18)

⑤ 寒帯 ( ) → [ ] ○気候統計

(1) ( ) [ ] a ( )

○気候の特色→ 縦軸に①、横軸に②を示す座標軸を定め、各月の数値を示す点を順に直線で結んだもの。図形の大小は、気候の季節変化の大小に対応する。図は、海洋性気候では小さくまとまるが、大陸性気候では③に長くなり、雨季と乾季のある気候では、④に長くなる。

○植生→

○土壌→

○分布→

(2) ( ) [ ]

○気候の特色①

②

○分布→

※高山気候 ( )

○気候の特色①

②

③

○分布→

気候区名 A ( )  
B ( )  
C ( )  
D ( )

暖化が進んでいる中、現在、ケッペンの気候区分を学習しているが、教科書および地図帳を併用しながら前ページのプリントに取り組んでいる。

この3枚（1枚はスペースの都合で割愛）のプリントの前段階として、世界の自然環境や地形を学習し、気候の基本知識として、ケッペンが設定した「A・B・C・D・E」の配列やそれに付随する記号を説明し教科書33ページに記載されている【気候区分の指標】を確認しながら、前述のプリントに入っていく。

基本的には先程の「A・B・C・D・E」の順に熱帯、乾燥帯、温帯、冷帯(亜寒帯)、寒帯と見ていくが、各気候では必ず、気候の特色を2つ以上、植生分布・土壌、世界のどの位置に分布しているかを説明していく。また、赤道付近の高山地帯の特別な気候区分を最後に説明し、同じ緯度にあっても高度によって気候が大きく異なることを実感させる。

また、気候統計には、はずすことができないハイサーグラフの活用方法についても解説をしている。

#### 4. 日本との関係の深い気候帯を探求

日本は、北海道、東北・北陸、甲信越の一部を除き温帯気候に該当する。とくに我々の住む関



東地方埼玉県においては、比較的年間を通して温暖な気候である。そこで、温帯の項目に

白壁の家の並ぶリゾート地とひっそりとした街なか  
〔楽しく学ぶ世界地理B 最新版〕p.26〕

でとくる4つの気候区分の特徴の中でとくに今回は、日本の温暖湿潤気候(Cfa)と夏季オリンピックが開催されるアテネが該当する地中海性気候(Cs)を生徒と共に比較してみた。

今回のアテネオリンピックは、期待される野球の長嶋ジャパンの活躍を筆頭にメダル獲得の高い種目が多い中、生徒の関心も高く、世界史の授業でギリシャ・ローマ時代を学習し歴史的建造物が多いことも理解しているので、日本との比較について生徒からも積極的な意見が多く出た。

一例として

- 日本の温暖湿潤気候については
  - ①温帯の中でも四季の変化が一番はっきりしている。
  - ②今年梅雨の6月に台風が多い。
  - ③季節に応じた風が吹く。
  - ④樹木の種類が多い。
  - ⑤秋の紅葉が美しい。
  - ⑥最近真冬でも地球温暖化の影響で暖かい。
- アテネ(ギリシャ)の地中海性気候については
  - ①降水量のグラフの形が日本と逆になる。  
(冬降水量が多く、夏は乾燥する)
  - ②地中海に面した地域にはリゾート地が多い。
  - ③日本に比べて長期休暇を取る人が多い。
  - ④夏の乾燥に強いオリーブやコルクガシなどの耐乾性の植物が多い。  
(この地域に生息する月桂樹をマラソンの優勝者に捧げることを知っている者も多数)
  - ⑤ワインの原料となるブドウやオレンジの栽培が盛んである。

こちらが想定していた解答よりも豊富な内容があり、このテーマを主眼に選んだのは良かったと思った。

これからも、この新しいタイプの教科書を活用して生徒の実態、時事内容と興味にあった授業をつくりあげていきたい。